

お薬のしおり



No.188 (H29.11)

東京医科大学病院 薬剤部

インフルエンザの治療薬について

寒さも厳しくなり、インフルエンザの流行時期が近付いてきていますが、みなさんはインフルエンザの予防はできていますか？前回はインフルエンザワクチンのお話をしましたが、今回は、インフルエンザにかかってしまった場合の治療方法と注意点についてご紹介したいと思います。

○インフルエンザの症状は？

インフルエンザウイルスに感染した場合、約1～5日（平均3日）の潜伏期間の後、インフルエンザを発症しますが、初期は突然の38℃以上の高熱・全身倦怠感・食欲不振などの全身症状が強く現れます。その後、やや遅れて、咳・のどの痛み・鼻水などの呼吸器症状が現れ、さらには腰痛・悪心などの消化器症状を訴えることもあります。通常は、1～2週間で治癒します。

○インフルエンザの治療は？

インフルエンザにかかってしまったかなと感じたら、なるべく早めに医療機関を受診し適切な治療を開始するようにしましょう。インフルエンザは発症後すぐに治療を行うことが重要です。また、早目に治療するという事は、周りの人への感染を防ぐという意味でもとても大切です。

インフルエンザの治療は、一般療法と薬物療法の2つに分けられます。

【一般療法】

- ・安静にして十分な休養をとる（特に睡眠）
- ・水分補給を十分に作る（お茶・ジュース・スープ等飲みたいもので良い）

【薬物療法】

インフルエンザウイルスは増殖のスピードが速いため、症状が出現して48時間以内にウイルスの増殖のピークがきます。このため、48時間以内にインフルエンザ治療薬を服用しないとお薬の効果が現れにくくなります。



●ノイラミニダーゼ阻害薬

ノイラミニダーゼは、ウイルスが細胞内に入り込んで増殖した後、その細胞から離れて別の細胞に移動するときに働くタンパク質です。そのノイラミニダーゼの働きを阻害することで、ウイルスの増殖を防ぎます。A型にもB型にも有効で、内服薬、吸入薬、注射薬（点滴）の3種類があります。

内服薬：タミフル[®]カプセル、タミフル[®]ドライシロップ

吸入薬：リレンザ[®]、イナビル[®]吸入粉末剤

注射薬：ラピアクタ[®]点滴静注液

！！注意事項！！

特に小児・未成年の患者さんにおいて、インフルエンザ治療薬の種類や服用の有無によらず、異常行動などの精神・神経症状が現れるという報告がなされています。また、因果関係は不明ですが、インフルエンザ治療薬の服用後に異常行動と関連すると考えられる転落死等が報告されています。異常行動などの精神・神経症状は多くはインフルエンザ発症から2日以内に発現するとされています。万が一の事故を防止するためにも、自宅において療養をされる際には少なくとも2日間、保護者の方等は小児・未成年者が一人にならないよう配慮してください。また、この度厚生労働省から小児・未成年者が住居外に飛び出ないための対策として以下のような例が追加されました。

(1)高層階の住居において

- ・ 玄関及び全ての窓の施錠を確実にを行う
(内鍵、補助錠がある場合はその活用を含む。)
- ・ ベランダに面していない部屋で療養を行わせる
- ・ 窓に格子のある部屋がある場合はその部屋で療養を行わせる

(2)一戸建てに住んでいる場合

- ・ (1)の内容のほか、出来る限り1階で療養を行わせること

抗インフルエンザウイルス薬を服用することにより、服用していない場合と比べて発熱期間が1～2日短縮され、ウイルスの排泄量も減少し、症状が徐々に改善されていきます。しかし、お薬を服用して熱が下がっても、体内のウイルスがすぐにはなくなるわけではありません。「症状が改善したから…」とってお薬の服用を途中でやめることで、体内に残っているウイルスが周りの人に感染する可能性があります。熱が下がったあとも、お薬はきちんと使い切り、最低2日間は自宅で療養しましょう。～お薬のことでご不明な点やご不安な点がある場合には、医師又は薬剤師までご相談ください。～

